

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	20220002	研究期間	平成20年度～平成24年度
研究課題名	遠隔操作アンドロイドによる存在感の研究	研究代表者 (所属・職)	石黒 浩（大阪大学・大学院基礎工学研究科・教授）

【平成23年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>研究代表者は、以前から人に酷似したロボットを開発しており、その1つである代表者に酷似したロボット（ジェミノイド）を用いた実験を行っている。すなわち、本研究はジェミノイドをさらに使いやすくし、必要最小限の機能をもつロボット（テレノイド）の開発という工学研究と、ジェミノイドに接する人の心理学的、脳科学的研究である。後者に関しては、論文として発表された研究成果がやや少ないように見受けられる。</p> <p>本研究のように、ジェミノイドを用いる実験環境は他では実現されていないので、新規の研究成果を得やすく、今後も研究を続ける価値がある。テレノイドに関しては、類似の癒しロボットと比較し、独自性を発揮することが期待される。</p>	

【平成25年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成された。
A	<p>1. 人間に酷似したロボットであるジェミノイドの遠隔対話機能と認知心理学的研究について、十分な学術的成果が得られた。ロボットに感じる人間らしさや存在感に関する脳科学的手法による脳機能の研究については、さらなる研究および成果の発表が期待される。</p> <p>2. 人間の存在感を示すための必要最小限の機能を備えたロボットであるテレノイドのデザインおよび試作を行い、実証実験を通して有効性を確認した。これは遠隔操作をしている対話相手の存在感を実現する世界に類をみない試みとして位置づけられる。本研究を通して、アンドロイド開発と人間理解が密に結合したアンドロイドサイエンスという新しい研究枠組みを世界に発信した意義は高い。</p>